▼コラム

わかり易い土木　第１２回　防災の話

ハザードマップ

シビル NPO 連携プラットフォーム サポーター
土木学会/シビル NPO 推進小委員会 幹事
㈱エイト日本技術開発 都市環境部門 都市防災担当
三村 昇

●ハザードマップとは？

前回第 10 回では、避難情報等について紹介させて頂きました。今回は、その避難のためにも参考としていただきたいハザードマップについてです。特にここでは、自然災害を対象としてお話しをします。

まず「ハザード」という言葉ですが、日本では主に「危険」あるいは「危険がある」という意味で使われていまして、危険が発生する確率は別として、可能性のある危険のことをいいます。

このことから、ハザードマップとは、地域で起こり得る危険な範囲を示した地図であり、住民にとっては、目に見えていない危険を教えてくれる貴重な情報ということになります。

なお、ハザードマップには、危険な場所だけでなく、ハザードの説明など参考情報や、安全な避難のための避難場所・避難所、避難ルートなど、関連する情報が併せて示されていることが一般的です。

●ハザードマップの種類

実際に市町村が公表しているハザードマップは、対象とする災害によっていろいろな種類があります。主な例を以下に示します。他にも、地震、液状化、火山、高潮、ため池などのハザードマップがあります。

種類	内容
津波ハザードマップ	津波による浸水深さを表したマップ。多くは避難場所・避難ルートも表示。
洪水ハザードマップ	洪水による浸水深さを表したマップ。氾濫により家屋が倒壊する可能性のある区域や避難所・避難方向等も表示。浸水している期間を示すマップもあり。
土砂災害ハザードマップ	土砂災害（土石流、急傾斜地、地すべり）を警戒すべき区域、危険な箇所を表すマップ。洪水避難のルート確認を考慮し、洪水ハザードと一緒の表示が多い。
総合ハザードマップ・防災マップ　etc	複数のハザードマップをまとめたもので、冊子形式になっているものが一般的。地域の危険をまとめて確認でき、便利であるため、最近多く見受けられる。

●ハザードマップの活用

ハザードマップは、一般的に最悪のケースを表現していることが多いものですので、実際に起こる災害において、必ずしもハザードマップの分布の通りになるとは限りません。つまり、ハザードマップは、予測される地域の危険な所を認識し、いざ災害が発生した際には、自宅あるいはよく行く場所などで、自分は避難する必要があるのか、避難するとしたらどのルートが安全なのか、避難先に危険はないのかなど、自身あるいは家族の身を守るために、事前から考え、準備するための情報（ツール）と捉えておくことが重要です。

いざという時は、つい慌ててしまいますが、自然災害は命に係わることです。ハザードマップの意味を理解し、事前から備えておくことで、いざという時でも慌てず、安全を確保できるよう、今からハザードマップを確認し、できれば地域のみんなで共有して見直しを図るぐらい、積極的な活用をしましょう。

※ハザードマップの確認方法：市町村からの配布物、役所・役場のホームページ（PC・スマートフォン等）、役所等での閲覧、公民館・コミュニティセンター等の地域拠点施設での閲覧